

尾張旭市における公共スポーツ施設の

先行予約制度に関する陳情

討論要旨 　いとう伸一議員

陳情者の説明によりますと、市民大会などの公的な行事は別として、その他の晴丘テニスコートの抽選なしで予約できるテニス連盟加入者の方の利用時間と同じような活動内容であるにかかわらず、抽選後に当選して初めて利用できる一般の方の利用時間との差について実情を調べて、計画済みの令和8年4月から、その翌年、令和9年の4月から、少しでも一般利用の枠を増やしてほしいというものであります。つまり、テニス連盟の会員さん117名、陳情者によりますと、うち半分が尾張旭市民であります。何人かは不明ですが、その他のテニスをしたい人たちとのテニスコートでの運動機会の配分バランスの問題であると認識しております。

2018年2月11日の中日新聞に、晴丘コート予約取れない。尾張旭、一部団体へ優先的貸し出しという記事が掲載されました。記事によりますと、土日は倍率50倍以上の時間帯があったとのこと。その後、井田コートの4面分が廃止され、本市のテニスコートが16面から12面になったことを勘案して、市民大会などを除くテニス連盟の優先利用分は、16分の12の年間478時間へと段階的に減りました。しかし、その後、テニス連盟の優先利用枠は、2025年度には1.56倍の746時間まで増えました。そのため、陳情者が市に対して要望書を出し、市長が担当を変え、対応指示をし、2026年から以前の478時間の計画になりました。

陳情者の、テニス連盟に加入していない多くの人たちにもテニスをやってもらいたいという思いは理解できますが、市とテニス連盟は、要望書に従い2026年度は478時間でやっていこうと決めただけです。現状を調べ、最適な配分を見極めるだけなら私は賛成しますが、今の時点で2027年度に減少ありきということは現実的ではないと考え、反対いたします。

陳情では、コートを回って直接聞いた市民の声として、晴丘コートは抽選に申し込んでも当たらないので申込み自体をやめました。連盟には日曜日の先行予約制度があります。他の市では、市民が優先してコートを使える仕組みになっていますなどが紹介されています。テニスをする者として、私は同じような声を聞いています。また、ここで一般の仲間内でも、抽選に当たった貴重なコートで、上級者が初心者に教えるために、玉出しやボレーやサーブ練習に付き合う人たちが現実にいることは申し述べておきます。

テニス連盟は市民大会の運営などに尽力されております。テニス連盟の優先予約制度は、尾張旭独自の制度です。今回の陳情には反対いたします。しかし、テニス連盟に入っている人たち、テニス連盟には入っていない人たち、上級者、初心者な

ど、バランスを考慮して、できるだけ多くの方が健康でテニスができることを強く願います。

さて、スポーツを人数で分類すると、野球サッカーは10人規模、テニスはダブルスで4人、マラソンは個人です。少年野球や少年サッカーという言葉はあっても、少年テニス、少年マラソンはあまり聞きません。私はマラソンとテニスをしていますが、ともに年齢を問いませんが、相違点があります。マラソンは個人の能力に関係なく大会に参加できます。マイペースで走れ、私のような高齢者は、速く走れる若者と同じコースにいることは大きな喜びです。しかし、テニス連盟や一般の方々の利用の大半を占めるテニスのダブルスはどうでしょう。レベルの違う人のゲームを想定しますと、例えば私以外の3人が上級者で、かつあまり知らない人だと、私は気弱なものですからドキドキします。雰囲気によっては、自分のところにボールが来るなとも思ってしまいます。また、大会の参加者は基本的に腕に自信のある上級者です。

少し話題を変えます。来る人口減少社会では、自治体も選別される時代が来ると思います。直接的な原因ではないんですが、公の行事や講師を招くテニス教室以外はコートの抽選なしでの優先予約制度のない長久手市は、人口減少対策に有効とされる20代、30代の割合が本市よりも高いです。また、毎年参加している長久手市のジブリパークのリビングマラソンは、若い世代のランナーがとても多い印象です。もちろん、我々のような高齢者に優しいまちはありがたいです。しかし、人口減少は困ります。若い世代の飲み会のコミュニケーションも私の時代とは全く違います。私がトレーニングをする庄内緑地公園の土日のテニスコートや、日進にある愛知県口論義運動公園、特にナイターのテニスコートでは、人口減少に歯止めをかける世代と言われている20代、30代の男女が楽しくプレイするのを見かけます。私が30代のグループに誘われるのも、長久手、日進、名古屋のコートです。

さて、晴丘コートはどうでしょう。陳情によると、人気の枠が優先的な予約に取られており、抽選を諦める人が多いとなっています。そんな中で、高校生以下ではなく、生活スタイルを自分で自ら決めることができる20代、30代の男女は何を望んでいるのでしょうか。晴丘の少ない抽選枠を見て、休日テニスを諦めるのか。抽選なしでテニスができるテニス連盟のような団体に入り、異なる世代と交流し休日を過ごしたいのか。それでも抽選をして、同世代で集まって遊びたいのか。スポーツの楽しみ方に、新しい発想で若年世代の思考を考えることは、魅力あるまちづくりに関連するテーマの一つだと思っています。

さて、コンディションがよくない城山テニスコートの改修調査が行われるのは大変ありがたいことです。今回の陳情の課題解決に少しでもつながるかもしれません。今回の陳情には反対いたしますが、健康には日頃の食事と運動が最も大切です。健康都市では、偏食しないバランス良い食事と、特定の人に偏らない多くの方々への運動の機会が推奨されることを望みます。そして、みんなで健康になりましょう。